

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
津奈木町	千代地区(内野、上下門、川内)	令和3年3月25日	—

### 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	25.68ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	25.12ha
③地区内における70歳以上の農業者の耕作面積の合計	5.54ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.87ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.43ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00ha
(備考)	

### 2 対象地区の課題

新規就農した若手農家もいるが、集落内の農業者の高齢化、担い手・後継者不足、耕作条件の悪い農地、水稻の価格低迷、気象条件の悪化、鳥獣被害の増加等による営農継続が困難な状況も見受けられる。現在耕作している農業者は、10年後も継続して耕作し、農地を守っていこうという意識が高い。しかしながら、将来の集落の農業及び農地を守っていくためには、集落内の農業・農地の保全、担い手の確保、未整備農地の引き受け等多くの課題がある。

### 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

内野集落の農地利用は、中心経営体である2経営体を中心に担っていくことを検討しながら、集落外から入作を希望する認定農業者や新規就農者の受け入れを促進することにより対応していく。
未整備農地については、ある程度の農地をまとめるなど活用できるよう整備を検討し、中心経営体、入作を希望する認定農業者や新規就農者の受け入れを促進していく。
水稻については、作業を委託できる経営体を地区外から誘致するなど、組織での営農活動継続について検討していく。
上下門集落の農地利用は、地元農業者を中心に利用している。集落内での新規就農者・後継者の育成も検討しながら、集落内の農業法人等を担い手として確保していく。
農業の継続が困難な農地が生じた場合に備えて、共同で支え合うサポート体制の整備と耕作放棄されそうな農用地については、集落内の担い手農家を中心に利用権の設定や農作業の委託等を行う。
川内集落の農地利用は、地元農業者を中心に近隣集落の規模の大きな農業者も利用しているが、集落内での新規就農者の育成も検討しながら、集落外の農業法人等を担い手として確保していく。
農業の継続が困難な農地が生じた場合に備えて、共同で支え合うサポート体制を維持し、耕作放棄されそうな農用地については、集落内外の担い手農家や第3セクター等による利用権の設定等や農作業の委託を行う。